

『思考と行動における言語』 1～5章

片平ゼミ 上野大和 正富信行
2009年12月12日(土)

3つのコンセプト

1. おもしろい事をやろう
2. 直観的に分かりやすい発表をしよう
3. 体を動かしてもらおう

3つの班に分かれてもらいます

1班メンバー: 常盤先生、今田さん、古城さん、
松山さん、平井さん、大槻さん

2班メンバー: 片平先生、上原さん、大下さん、
松永さん、深谷さん、浅井さん

3班メンバー: 古川先生、臼井さん、久保さん、
松崎さん、丸山さん、竹中さん、瀬野さん

発表の趣旨

1～5章のうち

主要なトピックを抜粋し

参加型の発表を通して、理解を深めてもらい

議論につなげてもらう

3つの主要なトピック

- 1、報告・推論・断定(3章)
- 2、外在的意味と内在的意味(4章)
- 3、情報的内包と感化的内包(5章)

1、報告・推論・断定

今からある絵を見せます。
その絵について
誰かに説明をするとしたら、
どういう説明をしますか？
自分なりの説明を
手元の紙に書いてください。

制限時間は二分



報告

＝直接見たり、聞いたり、感知したりしたことについての
叙述(実証可能である必要あり)

例

「片平ゼミは、火曜日に丸の内で行われます」(報)

→「片平ゼミはすばらしいゼミです」(not報)

推論

=知られていることを基礎に、知られていないことについてなされる叙述(推論を排除するのは困難)

例

「酔っ払いが寝ている」(推)

→「顔を赤くした男が目を閉じている」(報)

断定

＝価値判断を含んだ叙述（断定は思考を止める）

例

「それは素敵な自動車だった」（断）

→「100万kmも走ったが一度も故障しなかった」（報）

筆者の主張

報告・推論・断定という叙述のどれが良いとか悪いとかではなく、日常の表現の中で、こうした概念に意識的になる必要がある

そこで、先ほどの説明の紙を見てみましょう

2、外在的意味と内在的意味

今から
赤背景の写真と白背景の写真
を見せます

と同時に、ある質問をするので、
分かった瞬間に対応する色をこちらに
向けて札を上げてみてください。

早速...



これが外在的意味です

次に絵を描いてもらいます

制限時間は三分

猫

これが内在的意味です

外在的意味と内在的意味

外在的意味＝外界に存在しているもののこと

内在的意味＝頭の中に想起されるもののこと

※外界に存在するものでも頭の中に想起され
たら、それは内在的意味

(想起すると人によって猫の形は違う)

3、情報の内包と感化の内包

概念の位置づけ

外在的意味

内在的意味(内包)

言語
報告
推論
断定

情報的内包 = ある情報を想起

感化的内包 = ある感情を喚起



情報的内包と感化的内包

情報的内包＝ある情報を想起する状態
定義や外延を想起

感化的内包＝ある感情を喚起する状態
属人的

例

「あなたって、私がついていないと何にも出来ないんだから」

概念図再考



情報の内包 = ある情報を想起

感化的内包 = ある感情を喚起

概念図再考

情報の内包

感化の内包



概念図再考

情報の内包

感化の内包



概念図再考

情報の内包

感化的内包

感化的内包は「伸縮」する



落ち込んでいる部下を
元気づけるには
どう声をかけるべきか

やっていただくこと

- ①次に出てくるケースにおける応答について、話し合ってもらいます
- ②各班代表者を一人決めてもらい、前で実演してもらいます
- ③最後にどの班が良かったかを投票してもらいます

やっていたいただくケース

上司・部下(すれ違う)

上司「おお」

部下(ため息をつく)

上司「(ため息の理由を聞く)」

部下「最近元気が出なくて・・・」

上司「(元気づける一言)」

一例

上司・部下(すれ違う)

上司「おお」

部下(ため息をつく)

上司「**どうしたんだ、ため息なんかついて**」

部下「最近元気が出なくて・・・」

上司「**そういうこともあるさ。元気だせよ**」

やっていただくケース

制限時間は三分

上司・部下(すれ違う)

上司「おお」

部下(ため息をつく)

上司「(ため息の理由を聞く)」

部下「最近元気が出なくて・・・」

上司「(元気づける一言)」

各班の応答

1班

ため息の理由「どうした？」

元気づける一言「そんなこともあるさ。俺もよくなったから」

2班

ため息の理由「調子悪いんか？」

元気づける一言「自分で解決しないとな。頑張って。誰でもできるよ」

3班

ため息の理由「ちょっとどうしたの？」

元気づける一言「話しょっか♪」

僕らの考え

外在的意味

内在的意味(内包)

言語
報告
推論
断定

情報の内包

感化的内包



僕らの考え

外在的意味

内在的意味(内包)

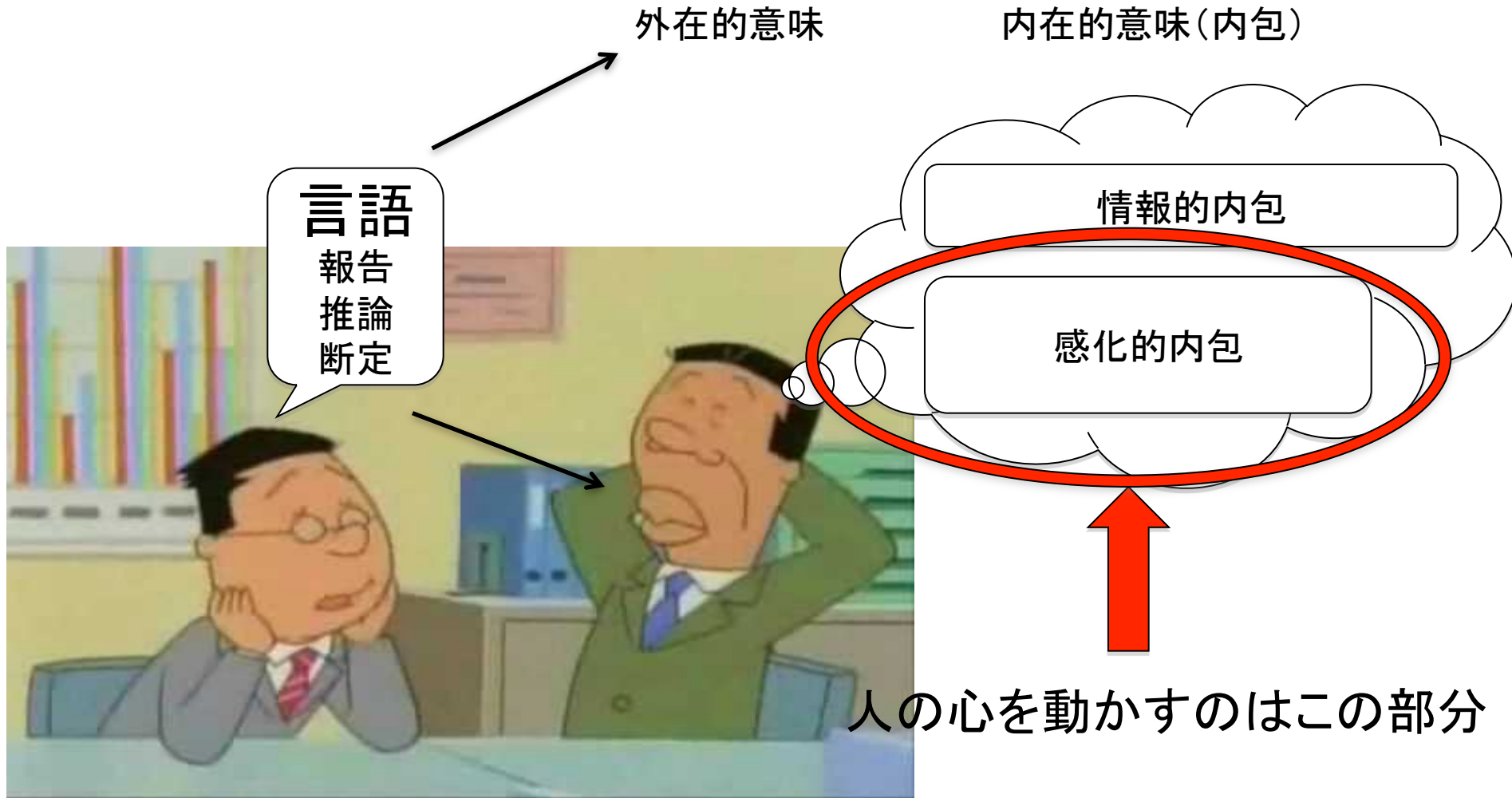
言語
報告
推論
断定

情報の内包

感化的内包



僕らの考え



ディスカッションテーマの案として

「人の心を動かす言動とは何か？」

(発表では出てこなかった要素も考慮しつつ)

とっかかりとして

- ・先程のケースで気づいたこと
- ・ご自身の体験談

などを共有してみてもはどうでしょうか

ディスカッション意見1

- 立ち話は難しい(場所)
- 同じ立場に立つ(上下関係ありきではダメ)
- 大丈夫「だよ」
- アクションが重要(言葉だけでは)
- 「結構です」「アホやな」「けったい」(肯定でも否定でもとらえられる)

←動作、声の調子による影響

ディスカッション意見2

- ・言語の役割、用途
- ・言語の果たす役割は7%
- ・現実→言語→現実(体験、経験)
- ・キンビール。技術者と消費者で使う言葉が異なる。そのギャップを埋めることで上手くいった
- ・「ため」→言葉の中にある深い意味
- ・ブログなどで、体験した人の表現と実際に体験してみたことの違い

ディスカッション意見3

- 体験と言葉のギャップを近づける
- 手で書いた文字と、タイプした文字の違い
- 「集まる(体験を共有する)」ことの重要性
- 言葉自体にパワーはない
- 「マーケティング」という言葉ひとつとっても、
 内在的意味が異なる

▪

ディスカッション意見4

- ・言葉自体の働きを見直す
- ・ケースによっては、言葉が9割占めるような場合もある(言葉がもっと大きな広がりを作る: 草食系男子)
- ・「アポロ計画」「～作戦」
- ・「25%削減」では、人は動かない→世界(ビジョン)を伝える必要性:「もったいない」
- ・固有名詞を作ったほうがよいのでは
- ・ビジョンを提示→加担できる

ディスカッション意見5

- 全体の運動につながるような表現

-